

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 15 号 〇●〇

平成 25 年 3 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第 15 号では、小中一貫・連携教育研究グループの一つである「下石神井小学校」と「石神井南中学校」の取組を紹介します。

【研究主題】 よく考え、主体的に行動できる児童・生徒の育成
～9年間の連続した学び合いを通して～

◆11年間の連携の積み重ね

下石神井小の掲示板には、小中連携の取組が写真入りで掲示されています（写真⑥）。取組の多様さに、11年間の連携の歴史を感じます。

全教科で学習指導上の連携を進めるため、5つの分科会「言語（国・外・英）」「社会生活（社・技家）」「理数（算・数・理）」「芸術（図・美・音）」「健康体育（体・保）」を設けています。

関連の深い教科を同じ分科会にすることで、教科間の連携をさらに進めています。理数分科会では、中学理科で習うオームの法則に必要な比例・反比例の勉強を、算数・数学でいつ、どのように習うのかなど、学習事項の教科間のつながりも確認しあっています。社会生活分科会では、小学校社会科の授業で、中学校家庭科教員が食糧生産について教えたり、技術科教員がパソコンの使い方を教えたりしました。



◆夏休みの学力補充教室に小学校教員が参加

7月末には、石神井南中の夏休み学力補充教室に、5日間でのべ10名程度の下石神井小の教員が参加しました。学力補充教室は、国語・数学・英語の3教科で行われており、主に国語と数学で、わからないところを説明したり、ドリルの〇つけを行ったりしました。下石神井小では、学力補充教室をプール指導当番と同列に位置付け、先生方の負担が偏らないように配慮しています。

◆体育や音楽で小・中学生が交流

1月22日、下石神井小5年4組の生徒が石神井南中へ出かけ、中学2年生と一緒に剣道の授業を受けました。中学生の号令で準備体操を行ったあと、中学生から竹刀の持ち方などを教わりました（写真⑥）。



両校は校舎が離れており、移動するのに10分以上かかるため、日常的に小・中学生が交流するのは困難な状況です。中学で行う体育祭の予行演習や合唱コンクールのリハーサルを小学生が見学するなどして、小・中学生が交流する機会を設けています。

◆中学進学を前に、出前授業を実施

学年末テストがあった2月25日の午後、石神井南中の英語科教員が下石神井小へ行き英語で授業を行いました（写真⑦）。



小学生たちは、英語で進んでいく授業にびっくりしながらも、ゲームを取り入れた授業を楽しみました。2月26日の午後には、数学科と理科の教員が下石神井小へ出向き、小学生に算数と理科の授業を行いました。

終了後に実施したアンケートでは、「先生が英語で全部しゃべってたように、ぼくも英語で会話できるようになりたい」「偶数や奇数や習ったことも出てきたので復習しなきゃいけないと思った」「実験がおもしろかった。特にレーザー光線や虫めがねを使って、外の風景を映すことが楽しかった」などのコメントが多数あり、いつもと違う授業に刺激を受け、中学へ行っても頑張ろうという気持ちが現れていました。

終了後に実施したアンケートでは、「先生が英語で全部しゃべってたように、ぼくも英語で会話

このほか、美術・図工でも出前授業を行い、自画像の描き方を教わりました。いろいろな教科で中学の先生から授業を受けることで、中学進学への期待を高めています。

◆学校関係者評価で小中一貫教育に対する記述意見

下石神井小では、学校関係者評価のなかに小中一貫教育に関する意見欄を設けました。内容としては、将来のビジョンや見通しがもてるなど「期待」が20件、クラブ活動の連携など「要望」が14件、メリットがわからないなど「疑問」が5件、低・中学年では活動がみえないなど「不明」が11件でした。

今後は、学校だよりや保護者会、ホームページなどで小中一貫教育に関する情報発信を充実し、保護者の協力を得て家庭学習の強化などにも取り組み、小中連携で目に見える成果をあげていきたい考えです。